

企業メセナ協議会 15 年間のおもな歩み

1988 年

- ・ 第 3 回日仏文化サミット「文化と企業」開催。フランスの商工業メセナ推進協会 (ADMICAL) 会長のジャック・リゴー氏より、日本における企業の芸術文化支援に関する啓発団体の発足が提案される。

1990 年

- ・ 企業経営者の有志が発起人となり、企業メセナ協議会設立。同年、芸術文化振興基金、経団連「1%クラブ」が相次いで設立されるなど、官民ともに文化支援・社会貢献の気運が高まりを見せた
- ・ 調査事業「メセナ活動実態調査」開始
- ・ 機関誌『メセナ』創刊号発刊

1991 年

- ・ 国際シンポジウム「企業の文化的役割 その新しい方向」開催
- ・ 書籍『メセナ白書』発刊
- ・ 顕彰事業「メセナ大賞」創設

1992 年

- ・ アメリカ BCA 元会長ジョン・D・オング氏が来日講演。「企業と芸術 アメリカの展望」で、企業の芸術支援の 4 つのメリット(個人と地域の自立、雇用の創出、人々のクリエイティビティを育てる、結果として企業の長期的繁栄につながる)を提示
- ・ BCA との共催により、日米メセナ・サミット「対話の構造 日米企業メセナの協力をめざして」開催。ニューヨークに視察団を派遣する

1993 年

- ・ アメリカ BCA 元会長ウィラード・ブッチャー氏講演とパネルディスカッション「不況下の芸術支援を考える」開催
- ・ イギリス ABSA(現 Arts and Business)事務局長コリン・トゥイーディ氏講演会「メセナ 宣伝広告、マーケティングと新ヨーロッパにおける芸術支援」開催
- ・ スイス、ドイツにメセナ視察団を派遣。企業や文化施設などを訪れる

1994 年

- ・ 文化庁より特定公益増進法人の認定を受けて「助成認定制度」をスタート。(芸術文化活動に対する企業や個人からの支援を税制面から促進する仕組み)

1995 年

- ・ 「国際メセナ会議 95」開催(5 月 22 ~ 24 日)、世界 27 カ国からメセナ組織や企業関係者の代表等 90 人のパネリスト、1400 人の聴衆が集う。本会議が契機となり、国際的なネットワークが構築され、年 1 回の国際会議が定例化するようになった

【企業メセナ協議会設立 15 周年 参考資料】

1996 年

- ・ 日本各地のメセナ関連組織相互の交流、情報交換をはかることを目的に「全国メセナ連絡会」が発足。(98 年に「全国メセナネットワーク」と改称)

1997 年

- ・ メセナ視察団をフランスに派遣

1999 年

- ・ ニュースレター『メセナ note』創刊号発刊
- ・ 協議会設立 10 周年記念イベント 日仏アートマネジメント「アートで地域を発想する」開催

2000 年

- ・ 企業メセナ協議会設立 10 周年にあたり、講演会や出版などの記念事業を行う
- ・ ジャック・リゴー氏による講演会「芸術文化とグローバリゼーション」開催
- ・ 国際シンポジウム「市民の時代と芸術文化 これからのメセナがめざすもの」開催
- ・ 書籍『なぜ、企業はメセナをするのか?』発行

2001 年

- ・ 「芸術文化のための提言 変革の時代にこそ、創造力の活用を」発表
- ・ メセナ活動データベース「メセナビ」(<http://www.mecenat.or.jp>)稼働

2002 年

- ・ 実務担当者勉強会(メセナ若手ネットワーク)スタート
- ・ 前年 12 月に「文化芸術振興基本法」が施行され、助成認定制度の対象範囲も拡大。より広範な芸術活動が認定の対象に

2003 年

- ・ 書籍『メセナマネジメント 戦略的社会貢献のすすめ』[メセナ白書シリーズ]発刊
- ・ 助成認定制度の利用を促進するため、相談窓口を全国の文化振興財団等に開設 寄付金額下限を引き下げるなど規定の一部を改定
- ・ 大阪市内に関西事務所(財団法人大阪 21 世紀協会内)開設

2004 年

- ・ 「メセナ大賞」をメセナ大賞部門・文化庁長官賞部門からなる「メセナアワード」と改定

2005 年

- ・ 企業メセナ協議会設立 15 周年
- ・ 設立 15 周年記念文化フォーラム「文化の地方分権がフランスを変える・・・ナント市長に聞く」開催(4月28日)
- ・ 2005 メセナ白書シリーズ『いま、地域メセナがおもしろい - 企業+アート+まちの実践』発刊(6月16日)